

中学校体育授業でのスナッグゴルフ実施による 生徒の反応について

米川 直樹¹⁾・鶴原 清志¹⁾・坪田 暢允²⁾・小山 哲³⁾
吉村 篤司⁴⁾・吉里 秀雄⁴⁾・坂田 利弘⁵⁾

本研究は、中学校の選択体育授業でスナッグゴルフを実施し、ゴルフに対する生徒の反応について検討することであった。結果は、スナッグゴルフの授業は、楽しかったとする者が約75%であったが、難しかったとする者も約35%であった。また、自由記述の分析で授業を通して技能の獲得、楽しさの享受が一番感じられたとの反応が見られた。このことから、ゴルフというスポーツは、中学校体育授業での望ましい教材として位置づけられると考えられた。

キーワード：スナッグゴルフ、中学校体育授業、選択体育、生徒の反応

1. 研究目的

日本にゴルフが移入されて100年以上経過したが、移入された当時は高尚なスポーツであったので、大衆には程遠いスポーツでもあった。しかし、昨今ゴルフも大衆化され、ゴルフというスポーツが身近なスポーツとして親しまれるようになってきた。また、石川遼選手、松山英樹選手、宮里藍選手などの国内外での活躍もあり、子どもたちにとってもゴルフというスポーツが親しみやすい存在になりつつある。しかし、ゴルフというスポーツは、用具（ドライバーやアイアンなどのクラブ、ボール等）の値段が高い、練習場やゴルフコースでのプレイ費が高い、また硬いボールを使用するので危険であるなどの問題があり、子どもたちにとって親しむスポーツではなかったと思われる。

このようなゴルフの情勢の中、安全面を配慮した危険性が低いスナッグゴルフというスポーツがアメリカで開発された⁶⁾。スナッグ (SNAG) とは、Starting New At Golf の略称で、ゴルフを学ぶ初心者にとって必要なゴルフの基礎的な要素を持ち合わせているスポーツである。つまり、スナッグゴルフは初めてゴルフを体験するのに最適なスポーツの一つであり、子どもたちにも簡単にゴルフの醍醐味が味わえるように工夫されており、また本格的なゴルフの導入にも利用されている。このスナッグゴルフは、フルショット、ピッチショット、パッティングなどの基本技術が学習出来るとともに、ルールはわかりやすく、学校の運動場や体育館といった既存の場所や

施設でも十分に楽しめるスポーツである。そこで、このスナッグゴルフというスポーツを中学校の正課の体育の授業で取り上げ、その成果や問題点を探ることにした。

ところで、中学校保健体育科の目標²⁾は、「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。」(p.85)となっており、各種の運動の実践を通して生涯にわたってスポーツに親しむ資質や能力の育成が期待されることである。

しかし、ゴルフは、中学校の保健体育の学習指導要領には記載されていないスポーツであるが、学習指導要領の内容の取り扱いの項の(2)のオでは「…、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。」(P.93)²⁾と示されており、授業でゴルフというスポーツを取り上げることは可能である。また、中学校学習指導要領では、球技はゴール型、ネット型、ベースボール型に分類されているが、高等学校専門学科「体育」においては、ゴルフをターゲット型球技として取り上げている³⁾。これらのことから、中学校の保健体育教諭と検討した結果、選択体育の授業におけるスナッグゴルフをターゲット型のスポーツとして取り上げ、生涯にわたってゴルフに親しむ資質や能力を育む事をねらいとして授業を行うこととした。

また、ターゲット型のスポーツとしてゴルフを正課の体育の授業で取り上げている状況について、三重県内の十数名の中学校保健体育教員に聞き取り調査を行った。その結果、松阪市、津市、伊賀地区、鈴鹿地区、亀山地区、四日市地区などの公立中学校において選択体育授業でバードゴルフ、グランドゴルフを実施していたが、ス

1) 三重大学教育学部保健体育講座
2) 名古屋学院大学経済学部
3) 中京大学体育学部
4) 名古屋工業大学工学研究科
5) 愛知教育大学保健体育講座

ナッグゴルフを正課の体育授業で実施している中学校は皆無であった。

さらに、ゴルフの授業を対象とした研究について、松下(2001)¹⁾の日本におけるゴルフの科学的研究文献の紹介のタイトルを見る限り、大学生を対象としたゴルフ授業の実態や意識調査であり、中学生を対象とした研究はみあたらない。また、ゴルフの授業実践における研究についてみると、大学の一般体育の授業を対象に行われている研究²⁾がみられるが、中学校の授業を対象にした研究はみあたらない。

そこで本研究は、中学校の体育授業でスナッグゴルフを実施し、ゴルフというスポーツに対する生徒の反応について調べることにより、学校教育現場へのゴルフ導入の可能性について検討することである。

なお、スナッグゴルフの授業内容については、「スナッグコーチングカリキュラム」³⁾と「スナッグゴルフ講習テキスト」⁴⁾を参考にした。

2. 研究方法

- 1). 対象者：中学3年生30名(男子：21名、女子：9名)
- 2). 期日：平成23年2月8日、10日
- 3). 場所：三重大学教育学部附属中学校の運動場
- 4). 用具：スナッグゴルフ一式(ランチャー、ローラー、ランチパッド、スナッグフラッグ、ボール、スナッグボード、スナッグターゲット)
- 5). 授業内容：選択体育の授業を2回実施した。

1回目の授業の展開は、次の通りである。まず、安全への配慮、用具の使い方の説明(10分)を行った後、「ボールを当てること、方向と距離のコントロール」を目標に実施した。その後、ネット(高さ約6M×長さ約30Mの防球ネット)に設置した複数の的(スナッグターゲット)に向かってボールを打つ班とボールを転がしての的(スナッグボード)に当てる班の2つの班を作り、15分で交代した。また、次回の授業では、ゲームを行う旨のアナウンスを行うと共に、仮設のホールを設置してティーショットからターゲットまでの全体的な進め方についてデモンストレーションを行った。

2回目の授業では、「ゲームを通して、ゴルフを体験し、マナー・エチケット、仲間との協力」を目標に実施した。ゲームに使うホールは、運動場にコーンやラインを使って5ホール設置した。この5ホールの設置については、サーフェスが土の運動場であるためボールが転がりやすいこと、サッカーのゴールや朝礼台を障害物として活用することとし、パー3は約30ヤードと約50ヤードの距離の2カ所、パー4は約80ヤードの距離を1カ所、パー5は約130ヤードと約150ヤードの距離の2カ所とした。ティーグラウンドは、コーンを置くことで明示し、的(スナッグ

フラッグ)があるグリーンは直径10M前後の大きさを楕円などの形を石灰で示した。各ホールに、3人1組のグループを2組ずつ配置し、ショットガン方式でスタートさせた。また、全員にスコアカードと鉛筆を持たせ、各ホールでの自己の打数と同伴者の打数を記入させた。

6). 調査内容：授業終了後、授業について(3項目)、ゴルフについて(5項目)を5件法で、また国民体育大会、オリンピックの種目であることの認知について2件法で回答させた。さらに、授業で得られたこと、授業で感じたこと、ゴルフで知っていること、を自由記述で回答させた。

3. 結果と考察

下記の4つの観点から検討することにした。

1. 授業やゴルフについて

「ゴルフの授業は、楽しかったですか」という質問に対して、あてはまると回答した者が74%、ややあてはまると回答した者が10%であり、約85%の生徒がスナッグゴルフの授業を楽しかったと答えていたことになる(図1)。また「ゴルフ授業はまたやりたいですか」という質問に対して、あてはまると回答した者が57%、ややあてはまると回答した者が20%であり、約80%の生徒が今後もスナッグゴルフの授業を受けたいと考えてい

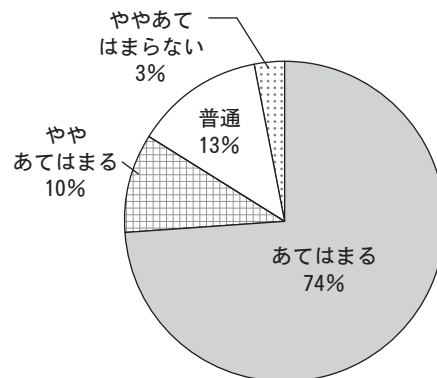


図1 楽しかったですか

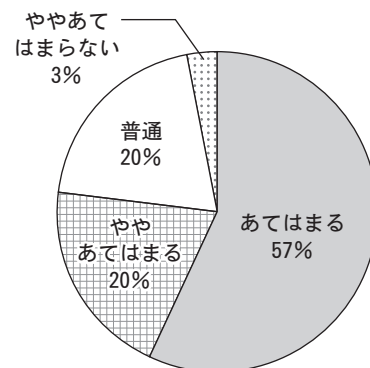


図2 またやりたいか

るようであった(図2)。一方、「ゴルフの授業は難しかったですか」という質問に対して、あてはまると回答した者が34%、ややあてはまると回答した者が17%であり、スナッグゴルフは約50%の生徒が難しいスポーツとして考えているようであった(図3)。

また、スナッグゴルフの授業を経験したことによって、ゴルフというスポーツへの興味や関心あるいは意欲面に影響が見られるかについて尋ねたところ、ゴルフに興味が出てきた(63%)、本物のボールを打ちたい(66%)、授業以外にゴルフをしたい(50%)、ゴルフのテレビ番組を見たい(33%)、家族でゴルフの話をしてほしい(24%)

という回答であった(図4~8)。このことは、初心者でも手軽に実施出来るスナッグゴルフを経験したことで約半数以上の生徒が、ゴルフというスポーツに興味や関心を抱いたことを示していると推察される。

以上のことから、スナッグゴルフの授業は、中学校保健体育科の目標である「…、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる…」という目標を達成するスポーツ種目として有用な種目であり、中学校の体育の正課の授業でのゴルフ導入を積極的に進めることが望ましいと考えられる。

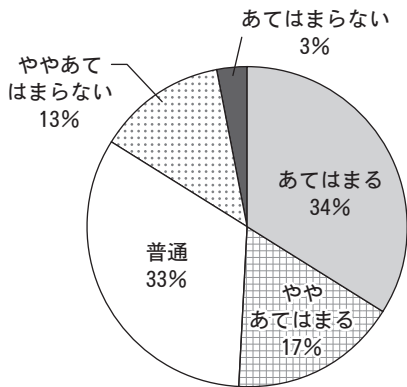


図3 難しかったか

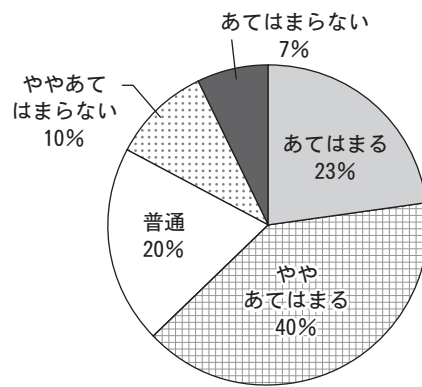


図4 ゴルフに興味が出てきたか

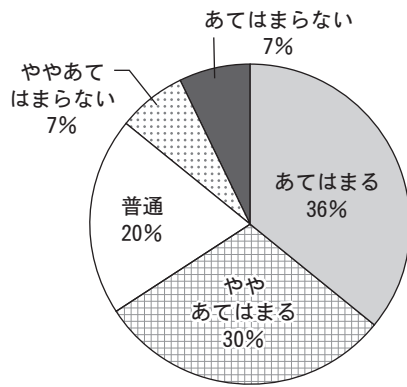


図5 本物のボールを打ちたいか

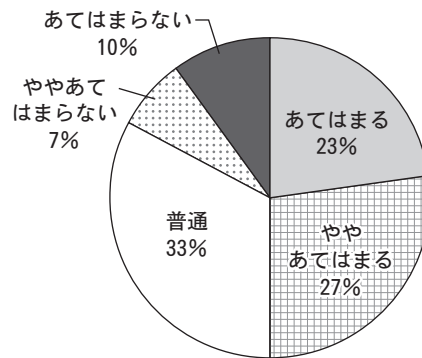


図6 授業以外にゴルフをしたいか

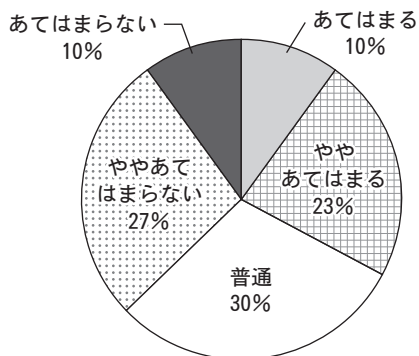


図7 ゴルフのTV番組を見たいか

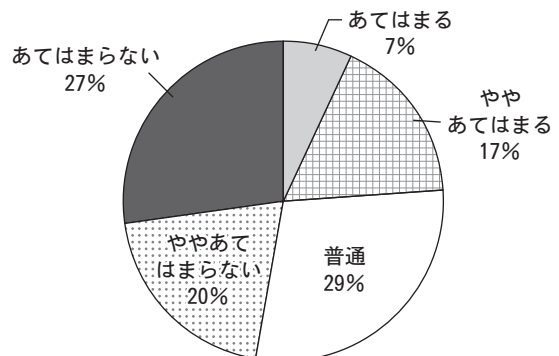


図8 家族でゴルフの話をしてほしいか

2. 授業で得られたこと

スナッグゴルフの授業を経験した生徒は、色々な事柄を学習したと考えられる。そこで、生徒に対して、スナッグゴルフの授業を通して得られたことを具体的に記述させた。この記述された内容を中学校の保健体育科の目標を参考にして項目毎に分けたものを表1に示した。その結果、技能に関する項目が最も頻度が高く、その中でもゴルフは「難しい」と回答した者が4名であった。次に頻度として多かったのが心理的な側面に関する項目であり、その中でも「集中力」と回答した者が4名であった。

このように、スナッグゴルフの授業を通して、生徒は知識や技能を高め、技能面や体力面に気づきを深め、さらに社会的な態度面も学習したことが考えられる。

表1 授業で得られたこと

項目	内容
技能 (17)	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい (4) ・体重移動するとボールが速く力強く正確に飛ぶ (3) ・コントロール (2) ・飛ばすだけではダメなこと ・正確さ ・正しいフォーム ・体の使い方 ・綺麗なスイング ・力を抜いて打つと上手く打てる ・野球のスイングとは違うこと ・野球と同じで、芯に当たらないと飛ばない
心理 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力 (4) ・忍耐力 ・ゴルフの楽しさ ・真剣に打たないと入らない
知識 ルール (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全の重要さ ・ゴルフの知識 ・ゴルフのルールを理解出来た
体力 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・器用さがつく ・内転筋が伸びる
社会的態度 運動に親しむ (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・個人競技だが、周りの人との協力が大切 ・興味が出て来た
その他 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・グリップの握り方、前傾姿勢、など本格的なゴルフができた ・石川遼選手になった気分

表中 () の数字は、頻度を示す

3. 授業で感じたこと

スナッグゴルフの授業を振り返って感じたことを自由に記述させた。この自由記述の内容をまとめたのが表2である。技能面の記述がもっと多く18個であった。その中でも、スナッグゴルフは「難しい」と記述した生徒が6名であった。また、スナッグゴルフの授業の楽しさや喜び面の記述は、14個であり、「すごく楽しい」といっ

た記述が5名であった。

さらに、表3の生徒の感想文をみると、2回の授業では技能の向上は見られなかったものの、ゴルフのおもしろさ、楽しさに気づかされ、下手は下手なりに気軽に出て来て夢中になれるスポーツに触れることが出来、ゴルフというスポーツの理解を深めると共に今後機会があれば

表2 授業で感じたこと

項目	内容
技能 (18)	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい (6) ・スイングの仕方や当てる箇所によって、ボールが色々な方向に飛んでいく (3) ・野球のスイングのようになるとうまく打てた ・パターの重要性がわかった ・ボールが飛ばない ・TVでの印象は、「球打っているだけ」と思ったが、かなり難しい。 ・パターンゾーンでは、力の加減が難しい ・1回目は空振りが多かったが、2回目は距離、方向を考えて打てるようになった ・寒かったので上手く打てなかった ・上手く打てたときの音 (ポコーン) とミスしたときの音 (ボシュ) が全然違った ・本当のボールは重いので、打てるのか?
楽しさ・喜び (14)	<ul style="list-style-type: none"> ・すごく楽しい (5) ・またやりたい (2) ・上達するにつれて、楽しさが倍増した ・上手く飛んだ時の快感が好きだ ・上手く打てたら楽しい ・楽しく体を動かせた ・とてもおもしろい ・本当のコースでやりたい ・人気のゴルフを体験出来て良かった
社会的態度 運動に親しむ (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間との関係の大切さ ・ゴルフに関心が出て来た ・興味が出て来た
用具 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブが重い ・ボールが小さい
その他 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・プロゴルファーの上手さが改めてわかった ・年配の人のスポーツでない ・本物はお金がかかるので安くすればよい ・ミラクルがおきる

表中 () の数字は、頻度を示す

表3 生徒の感想文

「今までゴルフは、テレビのニュースで少し見るくらいしか関わる事が無かったし、ただボールを打つだけなのに、何が楽しいのだろうと思っていた。今回のゴルフの授業で、結局私はたいして上手くなれなかったし、1回もボールを上へ上げる事すら出来なかったけれど、1つ的に向かってボールを打ち、近づけて当てる事がこんなに楽しいことだったのかと気づかされた。下手でも誰でも気軽に出来るし、それなのにやり始めると夢中になって、ゴルフというスポーツに少し近づけたように思う。又機会があればやってみたい」

実施してみたいといった感想を寄せていた。

これらのことから、スナッグゴルフの授業実践を通して生涯にわたってスポーツに親しむ資質や能力の育成が期待されると考えられる。

4. ゴルフで知っていること

表4は、ゴルフについて知っている事柄を箇条書きにしたものをまとめたものである。生徒の知っているゴルフに関する内容は、延べ183個を数え、一人あたり平均で約6個の記述が見られたことになる。最も多い事柄は、ルールに関する事柄であり、その中でも「ホールインワン」が多いものであった。次に多い事柄は、人名に関する事柄であり、「石川遼」が多いものであった。

また、「ゴルフというスポーツが国民体育大会の種目であることを知っていましたか」という質問に対して、35%の生徒が知っていたと回答していた。さらに、「ゴルフというスポーツがオリンピックの種目に復活することを知っていましたか」という質問に対して、30%の生徒が知っていたと回答していた。

このように、ゴルフというスポーツは、生徒達にとって身近なスポーツの一つとして認知されているように思われる。

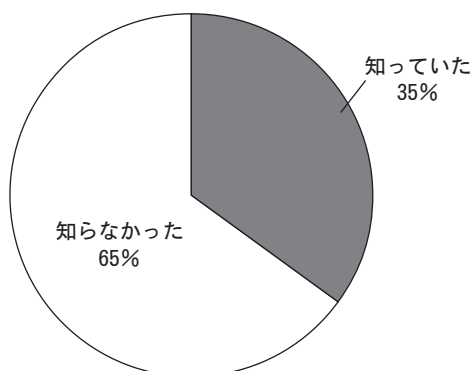


図9 国民体育大会の種目と知っていたか

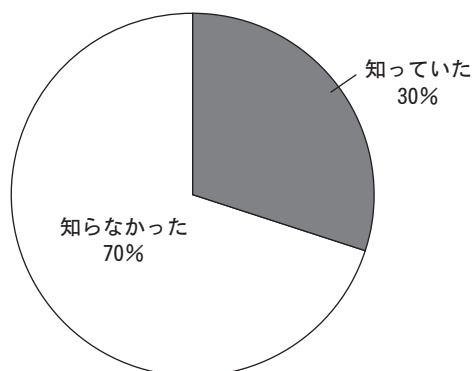


図10 2016年オリンピック種目に復活することを知っていたか

表4 ゴルフで知っていること

項目	内容
ルール (65)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールインワン (14) ・パー (11) ・イーグル (10) ・バーディー (9) ・ボギー (8) ・ダブルボギー (4) ・アルバトロス (3) ・トリプルボギー (2) ・OB (2) ・少ない回数で入れた方が勝ち ・打数が少ない方がよい
人名 (59)	<ul style="list-style-type: none"> ・石川遼 (24) ・タイガー (12) ・宮里藍 (11) ・横峰さくら (6) ・池田勇人 (3) ・諸見里しのぶ (2) ・今田竜二
用具 (18)	<ul style="list-style-type: none"> ・パター (9) ・ドライバー (4) ・アイアン (3) ・ウエッジ (2)
コースの名称 (18)	<ul style="list-style-type: none"> ・バンカー (6) ・ラフ (3) ・ウオーターハザード (2) ・ピン (2) ・グリーン ・池 ・コース ・グリーン ・ヤード
技術 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・チップイン (2) ・タップイン ・ピッチショット ・アプローチ
大会名 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ミズノクラシック ・マスターズ ・全英
その他 (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・キャディ (2) ・キャリー ・ギャラリー ・ゴルフバック ・全米ツアー ・接待ゴルフ ・政治家がやっている ・賞金王 ・賞金ランキング ・ハンディ ・池ポチャ ・ボールを穴に入れるとカランと音がする ・歩くのでやせる ・金がかかる

表中 () の数字は、頻度を示す

以上のことから、今回中学校選択体育で実施したスナッグゴルフの授業は、生徒たちが楽しさを感じるなど肯定的な反応であり、またゴルフのルールや人名も相当既知であることから学校教育現場へのゴルフ導入に対して障壁になる要因は見当たらないように思われる。また、スナッグゴルフの授業を通して中学校保健体育科の目標である「…積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる…」という目標もある程度達成されたと考えられる。さらに生徒は知識や技能を高め、技能面や体力面に気づきを深め、さらに社会的な態度面も学習したことが考えられる事から、ゴルフというスポーツは中学校体育の授業で有効な教材になると考えられる。

この学校教育現場へのゴルフの導入の可能性について、佐藤（2010）⁶⁾は「目標に準拠した評価や指導と評価の一体化の考えに基づき、何をどのように教え、どのように評価するのかを明確にすること」、「競技そのものを学ぶのではなく、技能、態度、知識、思考・判断を学習すること」、「発達段階に応じた指導内容の特定及び教材化や指導方法の開発」が求められるとしているが、ゴルフというスポーツの特性から見た時、ゴルフを実施する事で学習出来る内容もいくつか存在すると考えられる。

ゴルフというスポーツは、審判員が立ち会わないという特徴がある。このことはゴルフというスポーツがフェアプレーを重んじるスポーツであるからであり、またゴルフ規則⁹⁾の第1章に「エチケット」(P.26)が示されているように、ゴルフの実践を通してスポーツに関する行動規範を自然に学習出来ると考えられる。また、ゴルフはあるがままにプレイするスポーツであるので、自分が打った球がどんな状態であろうとも、何も手を加えられない、あるがままにそれを受け入れて自然体で対処せねばならない。そして、次のショットを打つために誰かに指示されるのではなく、自ら考えて、判断し、行動する事を学習出来る。さらに、同伴者と一緒にプレイする中で、安全に、遅延しないように協力しながら進める事

になるので、同伴者とのコミュニケーションが求められるし、対人関係スキルについても学習出来る。また、ゴルフというスポーツは、ショットの度に喜怒哀楽が表出するスポーツでもあり、ストレスや感情の対処についても学習出来ると考えられる。

つまり、ゴルフというスポーツは、「日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力である」(p.12)⁹⁾とする所謂ライフスキルの獲得に有効なスポーツであると考えられる。

参考文献

- 1) 松下高信（2001）「日本におけるゴルフの科学的研究文献の紹介Ⅱ」ゴルフの科学、14-1、25-44.
- 2) 文部科学省（2009）「中学校学習指導要領」、東山書房、85-97.
- 3) 文部科学省（2009）「高等学校学習指導要領」、東山書房、333-336.
- 4) (公財)日本ゴルフ協会（2013）「ゴルフ規則 2013年版」、そうごう
- 5) 日本スナッグゴルフ協会（2011）「スナッグゴルフ講習テキスト」、日本スナッグゴルフ協会
- 6) 佐藤豊（2010）「教育現場におけるゴルフの可能性ー学校教育現場へのゴルフ導入の可能性ー」ゴルフの科学（日本ゴルフ学会第23回大会号）、23-2、22-23.
- 7) スナッグゴルフ日本事務局、スナッグゴルフ米国（2002）「スナッグコーチングカリキュラム」、スナッグゴルフ日本事務局
- 8) 米川・鶴原（1995）「シンポジウム シラバスに基づいた授業展開、それぞれの教材で何を教えるか 大学体育実技におけるゴルフ授業の一例」大学体育、22-2、36-41.
- 9) WHO 編／川畑他監訳（2006）「ライフスキル教育プログラム」大修館書店